

病原体別対策：

レジオネラ

レジオネラ属菌は、水中や湿った土壤中に存在する菌で、空調施設の冷却塔水や給湯器の水など人工温水中に生息するアメーバの細胞内で大量に増殖する。レジオネラ症の原因菌として多いのは *Legionella pneumophillia* であるが、それ以外のものでも発症しうる。当院のレジオネラ尿中抗原で検出できるものは、*Legionella pneumophillia* の中で原因菌として一番頻度の高い血清型 1 型のみである。

1. 症状

- レジオネラ属菌を大量に含んだ自ら発生したエアロゾルの吸入によって経気道感染が起こる。人体内では、貪食細胞内で増殖することが知られている。病型としては、肺炎型と感冒様のポンティアック熱型とがある。高齢者や新生児、及び免疫力の低下をきたす疾患を有する者は、リスクグループである。

2. 感染経路

- 経気道的な空気感染。ヒト-ヒト感染はない。

3. 感染防止対策

- 罹患患者のケア時は標準予防策でよい。
- 病室用加湿器は加熱ヒーター式を用い、超音波式は使用しない。
- 超音波吸入ネブライザーは、薬液吸入治療用として使用する。病室内加湿用として、超音波吸入ネブライザーに水道水を入れて使用しない。
- 冷却塔水質管理を定期的の実施する。

冷却塔運転使用期間(4月から11月)は、以下の要領で水質検査を行う。

- 毎月1回(20日頃)に、該当冷却塔水の検体を施設担当者がサンプリングする。
- 検査部で、レジオネラ定量培養検査を実施する。
- 基準値を以下に定め、レジオネラが検出された場合は直ちに清掃・消毒等の対策を行う。

【表1：レジオネラ定量値の基準】

・浴槽などエアロゾルを直接吸入する可能性の高い場合	10CFU/100ml未満
・エアロゾルを直接吸入する可能性の低い場合	10 ² CFU/100ml未満

- 対策後、検出限界未満(10CFU/100ml未満)であることを確認する。